

令和5年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立住吉中学校
実施日	令和6年2月14日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○特色ある学校づくりとして、今年は「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が学校全体として行われた。研究部も組織され、毎週1回の研究部会も行われ、研究授業・研究協議が13回行うことができた。	A	・校舎の修繕なども生徒の意見を取り入れ特色を出している。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	○今年度は、避難訓練の他に、不審者対応訓練を行った。また、養護教諭が校内研修の講師になり、AED・エビソンの研修、校内で事故があったときの対応についての研修もおこなっており、組織的に迅速に対応できる力が一人一人の教員に備わっている。	A	・先生方への研修も充実しておられる様子で安心していられます。
	3	学校は、働き方改革を意図して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	○今年度は、坂戸市内の全中学校において部活動の朝練習をなくした。これについては、学校独自で進めることのできない働き方改革を市内で揃えてきたことは大きなことと思う。しかし、3年くらい前から、いろいろと行ってきた学校独自の改革は、今年は少なくなってきていて、手詰まり感がある。来年度は、他校から情報を集めながら、本校としてできる改善を図ってきたい。	B	・部活については、初めから理想形の具現は難しいですが、まずはできそうなところから、また失敗は成功の基と開き直り、先ずは一歩踏み出す勇気も必要かと。例えば、校庭中央の陸上、野球、サッカー、ソフトボールをローテーション化し、一日一部活を全校履用可とし、他は行わない。毎日の練習が必須とする従来型からは先ずは脱却し、顧問の負担減、縮小スクラップ化を図り、並行して地域移行(指導者、グラウンド)を模索していく担当部(教員・地域関係者)を設け、検討を重ねていくなど。 ・教頭、教務主任に負荷がかかっているように感じる。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	A	○学力向上に向け、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が学校全体として行われた。特に研究部も組織し、毎週1回の研究部会を行い、研究授業・研究協議を13回行うことができた。その中で、外部から講師を招聘し、指導していただくことで、一人一人の教員が自己の目標を立てて授業改善を図ることができた。	A	・時間短縮が職員にとって負担増が増加、結果、作られた時間の利用方法等、さまざま面から考えさせられそうですが、頑張っていた方がいいと思います。 ・グループでの参加型授業は、すこくいいと思います。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	○豊かな心は、道徳の授業をひとつの要として育成している。その中で、授業担当は担任だけでなく、学年の教員がローテーションを組み、指回りで実施することは、生徒にとっていろいろな価値観にも触れることができ有効であった。 ○道徳の授業だけでなく、学校における全ての教育活動で充実を図ることが大切である。その中でも、総合的な学習の時間、特別活動等も今以上に豊かな心を育成する観点から、計画的に進める必要がある。	B	・働き方改革がうまくいって、余裕ができたとしたら、ここに使ってもらいたい。 ・教員により多少の温度差があるように感じる。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○本校の生徒は、数年前の頃と比べると、落ち着いた態度で生活できる生徒が増えている。しかし、あいさつのできない生徒、言葉遣いが気になる生徒、宿題に取り組めない生徒、身の回りの整理整頓が苦手な生徒、休み時間の廊下でうるさい生徒など、課題のある生徒も多い。粘り強く、生徒たちへの指導支援を続けていく。	B	・あいさつは自らが理想でしようが、できない生徒には、先ず先生から、その場に合ったあいさつを心がけることから実践していただきたい。 ・クラスのサイズが現在の日本人の標準身長などに合っていない。ロッカーも小さく、クラスの後ろの席が雑多である。 ・私自身が昔の住吉生を知っているため、今の住吉中生は、とても落ち着いた見えます。5年前卒業した息子の時代と比べても、とても落ち着いた見えます。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	○毎月の不祥事防止チェックリストをはじめ、限られた中でも十分に研修として取り組んでいる。これからも風通しの良い雰囲気職員集団になるように全教職員で意識していく。	A	・世間で一番大きくとえられるところです。今以上によろしく願います。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている。	A	○家庭訪問を行って保護者と信頼関係を築いたり、生徒と会話して信頼関係を深めている教員のアがある。とても良い姿勢が本校にはある。 ○積極的な生徒指導ができている。さわやか相談員・学習支援員の対応も手厚い。 ○親り感を抱える生徒が多く、教室に入れない生徒が登校してきた時のために、学習支援室を設置し対応している。 ○職員室へ選別等で訪れた生徒に対するの温かい声かけや関わり等からも、教員の生徒を大切にしている姿勢が強く感じられる。生徒達も安心してできる環境がある。	A	・先生方は、とても丁寧に細やかに生徒の様子を見てくださっているようで、安心しています。 ・今の時代に合った生徒へのご指導ご支援を今後も願います。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	○特別支援学級では、個々の生徒に応じた必要な指導支援を行いながら、自立につながる教育を行っている。また、生徒一人一人の学習の習熟状況から、交流学級での授業を受けている生徒もいる。インクルーシブ教育の良さと個別支援の大切さの両方を活かしながら、生徒の指導支援にあたっていく。 ○ユニバーサルデザインの研修を活かして、研修で学んだ教室環境づくりを推進していく。	B	・特別支援学級の先生方は、生徒の特性に合った支援をとても丁寧に行っていると感じます。 ・住吉中学校で進めようとしていくユニバーサルデザインを活かした教室環境づくりも進めていただきたい。
	10	学校は、安心安全で機能的な学習環境整備に努めている。	B	○安全部の働きや業者を入れたる修繕等は、可能な限り、十分にできている。校舎の外壁塗装によって、外側はともきれいでよくなったが、校舎の内側は老朽化が多数見られる。このような校舎を大切に整備しながら、安心安全で機能的な学習環境整備を今後も行っていく。 ○令和6年度は、受水槽等の改修工事を行うことになっている。	B	・校内の美化、清掃等は、いつてもきれいにされていると思います。なんとかがトイレだけでも近代化がなればと思います。 ・大きな掲示物がカラーで多数あり学校がわかりやすい。設備は確かに古いですが、きちんと清掃され、掲示物も整っていいと思います。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	○校長のホームページ更新、教頭のメールでの情報提供、各分掌でのよりなど、よくできている。令和5年度に新型コロナウイルス感染症も5類へと移行したため、次年度は、保護者や地域へ積極的に学校公開を行うことになっている。	A	・メールやホームページが活用されていると思います。 ・地域に興味を持ってもらえるような情報提供をしていただきたい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○本年度、地域の伝統芸能である大宮住吉神楽についての授業を長年余の方に来ていただき、2年生で行った。とても良い取組となった。来年度も実施する。今年度の取組を活かしてさらに地域とつながる学びとしていく。 ○通学路点検や危険箇所把握等、家庭や地域と協力して取り組める方策を検討する。 ○学校運営協議会を活かした取組や学校応援団との連携をさらに強め、よりよい住吉中学校を構築する。	B	・住吉神楽を取り入れ、自分の住んでいる地域を知ること連携ができている。 ・地域の協力は以前より難しくなっていると思う。今後の課題ではないか。 ・地域の伝統芸能を広める行事はすこく大切だと思います。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	○2学期に実施した小中連絡会で、住吉中学校の学びづくりの取組を伝え、小中共同した取組になるように共通理解ができた。次年度は、夏季休業の期間に、新たに小中の教員が集まり研修を深める計画になっている。今後も小中連携を推進していき、児童生徒のよりよい教育活動に活かしていけるようにつなげていく。	B	・小学生本人や保護者が安心して住吉中に進学できるよう情報交換して欲しいです。 ・親同士の関係が盛んでない状況なので、先生方だけでなく、小中学校の連携が取れていることは大切だと思います。